

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和5年 7月18日

更新日：

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	上下水道局 総務課
施策No.	25	施策名	上下水道の整備	施策主管課長名	時田 啓
施策関連課名		上下水道局経理課、工務課、浄水管理課、給排水課			

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 人口	単位	人
			B 基幹管路延長		m
			C 衛生処理人口		人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	A)安定的な水道水の供給により、いつでも安心しておいしい水が飲める B)生活雑排水が適正に処理され、衛生的で快適な生活を送ることができる	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 水道の水はおいしいと感じる市民の割合	単位	%
			② 基幹管路の耐震化率		%
			③ 生活排水水洗化率		%
			④ 下水道施設整備率		%
成果指標設定の考え方	① 水道水に対する市民の評価を示す/安心・安全な水道水は無味無臭が基本で、無味無臭であることにより飲んだときに「おいしい」と感じられるため、成果指標とした。 ② 水道の安定供給対策の進捗度を示す/水道の基幹管路が、平常時はもちろん、災害時においても使用できる割合が高いことから、安心安全な水道水の安定供給につながるため、成果指標とした。				
(成果指標設定の理由)	③ 汚水処理施設による生活排水の適正処理状況を示す/生活排水が水洗化されれば、市民が衛生的な生活を送ることができるので、成果指標とした。 ④ 下水道施設整備の進捗状況を示す/下水道の整備率は、生活雑排水を適正処理し、市民が快適な生活を送ることにつながるため、成果指標とした。				
成果指標の測定方法	① 市民アンケート『水道の水はおいしいと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合 ② 水道統計に基づく報告値(導水管・送水管・配水管)は、耐震化適合率で示す。：準耐震管路延長÷基幹管路総延長×100(%) ③ (公共下水道水洗化人口+農業集落排水水洗化人口+合併浄化槽処理人口+コミュニティプラント処理人口)÷衛生処理人口×100(%) ④ 南アルプス市汚水処理施設整備構想に基づき年度別目標値に対する達成値(年度別整備計画面積÷全体事業計画面積)×100(%)				

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標	A 人口	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430	
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434			
	B 基幹管路延長	見込み値					113,332	114,482	114,482	114,482	114,482	114,482	
		実績値	110,370	110,566	112,752	113,332	115,356	115,926	114,730	121,565			
C 衛生処理人口	見込み値						53,263	54,258	55,253	56,248	57,243	58,238	
		実績値	49,282	50,175	51,340	52,268	52,722	54,001	57,023	58,460			
	① 水道の水はおいしいと感じる市民の割合	目標値	61.2	61.4	61.6	61.8	62.0	68.9	69.4	69.9	70.4	71.0	
		実績値	63.9	61.0	66.0	68.1	67.2	67.2	65.1	68.6			
② 基幹管路の耐震化率	目標値	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0	35.0	36.0	37.0	38.0	39.0		
	実績値	29.6	30.0	31.8	33.1	34.7	38.3	39.8	38.6				
③ 生活排水水洗化率	目標値	87.2	87.3	87.4	87.5	87.6	92.3	92.7	93.0	93.3	93.6		
	実績値	90.2	90.1	91.1	91.6	92.4	93.6	91.3	91.3				
④ 下水道施設整備率	目標値	-	-	-	-	50.8	52.6	54.5	56.4	58.3	60.2		
	実績値	42.1	42.9	43.9	45.1	45.9	46.8	57.5	59.0				

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

① 「水道水のおいしい」は、日々の適正な業務についてくるものとする。成り行き値の根拠は、実績値伸び率平均(1.05%)の約3割程度を伸びとし、R1を68.4%→R6を70%に設定。目標値は、実績値伸び率(1.05%)の約5割程度を見込み、R6を71.0%に設定。
② 全国、県平均値との差は大きく直ぐ追いつく数値ではない。成り行き値は、実績値伸び率平均(0.875%)を伸びとし、R6を38.4%と定めた。目標値については、実績値伸び率(0.875%→1%)により、R6を39%に設定。
③ 目標値は、過去4年間における、各年度の増加人数を平均化した数値1,114人をR1以降の各年度の各年度に算出し水洗化人口を算出、この水洗化人口を各年度の衛生処理人口で除した率で表した。成り行き値は、人口減少、下水道の加入率等を考慮して、上記の平均値の90%約1000人の増加と推測し同様に計算し設定した。
④ 目標値は、南アルプス市汚水処理施設整備構想に掲げた、各年度別整備計画面積を全体整備計画面積で除し、整備率とした。成り行き値は、H30の単年度整備面積が計画の約60%であるが、R2年度から80%まで引き上げて整備を行い、遅延分を補うことを考慮し設定した。

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
・限りある資源の有効活用 ・エコ製品(環境にやさしい洗剤等)の積極的利用や下水道加入により、快適な生活環境づくりへの意識向上に努める(みんなで環境を良くしていく気持ちを持つ) ・合併処理浄化槽へ切替えや汚水処理施設(浄化槽等)の定期点検(清掃)の確実な履行 ・整備区域内での下水道早期接続 ・地域が実施する河川等水源の環境保全活動(草刈り・泥上げ等)の実施	・安全な水道水の安定供給 ・計画に基づいた施設等の整備 ・啓発(良好な生活環境創生行動の意識付け) ・環境保全活動への報奨制度設置や回収廃棄物の処理費負担

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・ゆるやかではあるが人口減少、高齢化が確実に進行し宅地開発の増加による地域コミュニティが変化しており、河川清掃等地域活動の縮減が危惧される ・下水道施設の整備(未普及の解消)により、下水道区域が拡大することで下水道処理区域内人口が増加していく ・必要に応じ料金改定を実施していかなければならないが、影響(水道水への不満、下水道への未加入)が懸念される ・国庫補助金の運用を積極的に進める	(市民アンケート) ・おいしい水道水 ・カルキ臭がする ・水道料金が高い ・下水道の早期整備(未普及の解消)(議会) ・水道管の耐震化促進、地方公営企業法適用による下水道事業の適正経営への期待

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	5	5	4	4	
関連事業予算額(単位:千円)	1,490,354	1,489,891	1,368,148	1,506,602	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	26,800	0	0	0
	地方債	181,000	158,700	80,000	180,600
	その他	1,831	0	0	0
	一般財源	1,280,723	1,331,191	1,288,148	1,326,002

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/>	目標より高い実績値だった	全4項目の指標のうち、2項目が目標値を上回っており、残り2項目は下回っているが、全体としては目標どおりの実績値と判断した。 上水道では、市民アンケートによる結果で、水道水のおいしさの評価が、昨年度は前年度の実績値及び目標値を下回ったが、今年度は上昇していることから、評価としては概ね横ばい状態にある。水道水は出て当たり前の状況を維持できている、不満が少ない傾向だと考えている。また、耐震化率は、目標値の37%を1.6ポイント上回る38.6%であり、目標より高い実績値であった。 下水道では、水洗化率が、目標値を僅かに下回っている。これは、令和3年度、4年度の整備面積が例年に比べ大きく伸び、これに伴い処理区域内人口が大きく伸びたためであり、この区域は翌年度以降供用開始のため、今後順次水洗化率も上がる見込みである。整備率は、上記のとおり令和4年度の整備面積の伸びにより、昨年度から1.5ポイント伸び、目標値を2.6ポイント上回る結果となった。
<input type="checkbox"/>	どちらかといえば目標より高い実績値だった	
<input checked="" type="checkbox"/>	目標どおりの実績値だった	
<input type="checkbox"/>	どちらかといえば目標より低い実績値だった	
<input type="checkbox"/>	目標より低い実績値だった	
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/>	成果がかなり向上した	全体として、平成27年度から比較すると4項目とも向上している。成果の伸び率はまちまちではあるが、横ばい状態と判断した。 水道水のおいしさの評価は、年毎に多少のばらつきはあるが、いずれの年も6割以上を維持している。耐震化率は、対前年度で1.2ポイント減少している。これは、令和4年度に芦安簡水を統合したことによるものであるが、実績値の平成27年度からの平均伸び率は1.29ポイントであり、目標値の年1.0ポイントを上回っている。 下水道の生活排水水洗化率は、令和2年度まで僅かずつ上昇してきたが、令和3年度は減少し、令和4年度は令和3年度と同じ数値となった。これは上記理由によるものであるが、引き続き、啓発活動や市民の意識向上に努めている。整備率は、令和2年度まで1ポイント弱の微増であったが、令和3年度は事業計画を見直した結果、全体計画区域を縮小したことで大きく上昇し、更に令和4年度は上記理由により上昇した。
<input type="checkbox"/>	成果がどちらかといえば向上した	
<input checked="" type="checkbox"/>	成果はほとんど変わらない(横ばい状態)	
<input type="checkbox"/>	成果がどちらかといえば低下した	
<input type="checkbox"/>	成果がかなり低下した	
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/>	かなり高い成果水準である	水道基幹管路の耐震化は、アセットマネジメント等の計画に基づいて更新しているが、全国平均の41.2%にはとどいていない。山梨県平均の36.5%は上回った。これは、駒場浄水場系及び老朽管更新事業等大きな事業を実施したことにより大きく向上した。しかし、耐震化を施す物は管路だけではなく、浄水場や配水池等、他施設においても耐震化及び更新を行っていくなければならない。令和5年度からは、取水口沈砂池の大規模な耐震化工事(御勅使川取水施設改修工事)を計画している。 下水道管路の整備率は、令和3年度に南原団地及び桜ヶ丘団地、令和4年度は西新居団地を接続したことで大きく向上した。釜無川流域関係の他事業体との比較については、この指標は本市独自の指標であり、他団体と比較することはできないため、一般的な普及率と比較すると、本市56.9%(対し甲斐市は78.1%、中央市は66.1%(いずれも令和3年度未普及率)であり低い水準と言える。
<input type="checkbox"/>	どちらかといえば高い成果水準である	
<input type="checkbox"/>	ほぼ同水準である	
<input checked="" type="checkbox"/>	どちらかといえば低い成果水準である	
<input type="checkbox"/>	かなり低い成果水準である	

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> 水道施設の計画的な更新と耐震化に取り組み、安全・安心でおいしい水道水を安定的に供給する。 適正な維持管理と事業計画等の見直しによる経営基盤の強化を図り、上下水道事業の健全な運営に努める。 汚水処理施設整備構想に基づき、下水道施設の整備を進め、利用者の拡大を図り、未普及の解消に努める。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 水資源の確保と安定した供給	駒場浄水場内の配水池等の整備が完了し、更に安定した供給が図れるよう、御勅使川取水施設改修工事に着手する。 本市の地下水を水源とする浄水施設では、予備的水源の無い施設が多いため、ポンプ等の更新に苦慮することから、複数の水源を確保することが課題となっている。また、藤田・寺部地区等においては、住宅開発等が盛んで、安定的な供給が課題となっており、令和4年度の「施設統廃合計画」の見直し結果を基に、今年度策定する「中長期計画」及び「実施計画」に反映し、水運用について検討していく。	より安定した供給が図れるよう、御勅使川取水施設改修工事を進めていく。 また、令和4年度で見直しを行った「施設統廃合計画」及び令和5年度に策定する「中長期計画」及び「実施計画」に基づき、計画的な水運用を図っていく。
2 上下水道の適正な管理・運営	上下水道事業共に経営基盤の強化を図り、持続可能な運営を目指しているところである。 水道事業では、令和3年度策定した「水道ビジョン2022」や令和4年度見直しを行った「施設統廃合計画」に基づき、今年度「中長期計画」及び「実施計画」を策定する。 下水道事業は、経営の戦略方針となる「下水道事業経営の健全化について」公共下水道事業審議会へ諮問し、審議・答申をいただき、今年度は、この答申に基づき使用料改定へ向けて推進していく。	上下水道事業では、令和5年度に策定するアセットマネジメントの手法を取り入れた「中長期計画」及び「実施計画」を基に、「経営戦略」の見直しにつなげていく。 下水道事業においては、経営健全化へのロードマップに基づき、使用料改定を行う。
3 下水道未普及解消の促進	整備率については、既存のコミプラ3箇所を接続したことにより、大きく向上したが、県内の他団体と比較しても低い状況である。引き続き下水道施設の整備を計画的に進め、未普及地域の解消を促進していく。 また、整備済み区域内の市民に対して、加入者説明会等により下水道普及の理解を深めていただき、広報等による普及啓発活動も積極的にを行い、未普及解消と共に水洗化の向上も図る。	公共水域の水質改善及び保全を図るため、下水道未普及解消の施策として、引き続き、全体計画や汚水処理整備構想に基づき、下水道施設整備の推進及び広報活動等による普及啓発活動を積極的に進める。
4		
5		